

第7期横浜市子ども・子育て会議 第3回保育・教育部会 第35期横浜市児童福祉審議会 第3回保育部会 合同部会 公開議事会議録		
日 時	令和7年6月2日（月）18時00分～19時40分	
開 催 場 所	市役所18階 みなと6・7会議室	
出 席 者	石井部会長、稲田委員、大澤委員、尾木委員、芥田委員、清水委員、高杉委員、森委員、山瀬副部会長	
欠 席 者	大庭委員	
開 催 形 態	公開（一部非公開）	
議 題	<p>報告＜公開案件＞</p> <p>【子ども・子育て会議】</p> <p>（1） 令和7年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について</p> <p>議事＜非公開案件＞</p> <p>【子ども・子育て会議】</p> <p>（2） 私立幼稚園等預かり保育事業の新規認定について</p> <p>【児童福祉審議会】</p> <p>（3） 保育所の認可及び内装整備費補助金交付先法人の審査について</p> <p>（4） 小規模保育事業の認可及び補助金交付先法人の審査について</p>	
議 事	<p>石井部会長</p> <p>事務局</p> <p>石井部会長</p> <p>芥田委員</p> <p>事務局</p> <p>芥田委員</p>	<p>議事（1） 令和7年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>資料に沿って説明。</p> <p>それでは、ただいまの事務局の説明について質問や意見がございましたらお願いいたします。</p> <p>資料の保留児童の状況のところ、保留児童数は過去最少で1,511人ということですが、育児休業延長希望の方を除くということは、積極的に育児休業を延長したい方だけなのか、保育園に入れなかったから、仕方がないから育児休業を延長した人も除かれているのか、その辺はいかがでしょうか。</p> <p>その点については、横浜市では利用申請書の中に育児休業延長の許容に関するチェック欄を設けています。芥田委員のおっしゃるようなイメージで言うと、この欄にチェックをつけた方は積極的に育児休業を希望している方として、1,511人からは除いているという状況です。</p> <p>分かりました。ありがとうございます。本当に素晴らしい成果だと思いますけれども、待機児童ゼロを継続していく上での今後の課題や取組はどのように捉えていますか。</p>

	事務局	<p>12年前に待機児童ゼロを達成した翌年には、リバウンド的に増えてしまったこともありますので、継続するということが大事だと思っています。加えて、1歳児の保留児童の状況をエリアで示した資料のとおり、特定エリアで保留児童が集中しているというよりは、まばらになってきていると状況を考えると、既存の施設を活用していくということが大事になってくると考えています。</p>
	<p>斉田委員 石井部会長</p>	<p>ありがとうございます。 加えて、保留児童までゼロにしていくのか、今後の方向性を教えていただけたらと思います。</p>
	事務局	<p>数で言うのが非常に難しい問題だと思っています。保留児童は育児休業延長希望の方を除いた数としても1,511名ですが、この中には求職活動を休止している方や、空きのある園を申し込んでいないような方もいらっしゃいます。一方で、入りたいけれども入れていないという方も当然この保留児童の中にいらっしゃいます。こうした状況や定員割れの状況などもふまえて、新規整備のことも考えていく必要があると考えています。先ほど申し上げたとおり、まずは既存施設の活用を第一優先とし、それでも足りない場合は新規整備するような考え方になるかと思っています。</p>
	稲田委員	<p>保留児童の件ですが、何で保留になるのかの分析はどうでしょうか。また、入りたい園、魅力的な園がなくて保留になっているという話が気になっており、倍率が高い園とそうでもない園があるのかなと思っています。そういった分析みたいなことはどの程度されているのでしょうか。</p>
	事務局	<p>保留児童の分析については、令和4年度から実施をしています。今、稲田委員のおっしゃっていただいたような人気のある園という捉え方ではないですが、障害のあるお子さんが入りづらいとか、やはりきょうだい児が課題になっているとか、そういった分析をしながら対応していますので、引き続き取り組んでいきたいと考えています。</p>
	<p>稲田委員 石井部会長</p>	<p>ありがとうございます。 ほかにはいかがでしょうか。そうしましたら、公開の報告案件は以上になります。</p>